

世界遺産論

第14講 海外の自然遺産

瀬戸 敦子(岐阜女子大学)

第14講 海外の自然遺産

【目 的】

自然遺産の定義を確認しながら、世界の自然遺産の中から「ハワイ火山国立公園」、「ンゴロンゴロ自然保護区」のOUVについて理解する

【学修到達目標】

- 「ハワイ火山国立公園」の概要と登録内容について説明できる
- 「ンゴロンゴロ自然保護区」の概要と登録内容について説明できる

テキスト 第9章 (p.165～179)

9-1 地球の歴史

カナディアン・ロッキー山脈国立公園群

9-2 火山

ハワイ火山国立公園

カムチャツカ火山群

9-3 氷河とフィヨルド

ロス・グラシアレス国立公園

ノルウェー西部のフィヨルド、

ガイランゲルフィヨルドとネーロイフィヨルド

9-4 滝

イグアス国立公園

ヴィクトリアの滝（モシ・オ・トゥニヤ）

9-5 海洋と湖

グレート・バリア・リーフ

エル・ビスカイノ鯨保護区

バイカル湖

9-6 生物多様性

ンゴロンゴロ自然保護区

ヴィルンガ国立公園

中央アマゾン自然保護区群

自然遺産とは （復習）

地球の生成や動植物の進化を示す、地形や景観、生態系などで、登録基準（vii）～（x）のいずれかひとつ以上を認められている遺産が、自然遺産とみなされる。

世界遺産条約1章第2条には、3つの定義がある。

- 無生物または生物の生成物、生成物群からなる特徴のある自然の地域であって、観賞上または学術上、顕著な普遍的価値を有するもの。
- 地質学的または地形学的形成物、及び脅威にさらされている動物または植物の種の生息地・自生地として区域が明確に定められている地域であって、学術上または保存上、顕著な普遍的価値を有するもの。
- 自然の風景地及び区域が明確に定められている自然の地域であって、学術上、保存上または景観上、顕著な普遍的価値を有するもの。

【自然遺産として認められる登録基準と日本の特徴（2024年1月現在）】

（vii）自然美や景観美、独特な自然現象

日本では、唯一『屋久島』に認められた。

（viii）地球の歴史の主要段階を示す遺産

地層や地形だけでなく、恐竜や古代生物の化石遺跡も地球の歴史を示すものとして認められた。現在日本で、この基準が認められている遺産はない。

（ix）動植物の進化や発展の過程、独自の生態系を示す遺産

ここでは、現在進行中の生態学、生物学の代表例も含まれる。日本の自然遺産4件で認められている基準。

→日本の自然遺産の特徴「生態系の多様さ」にある。

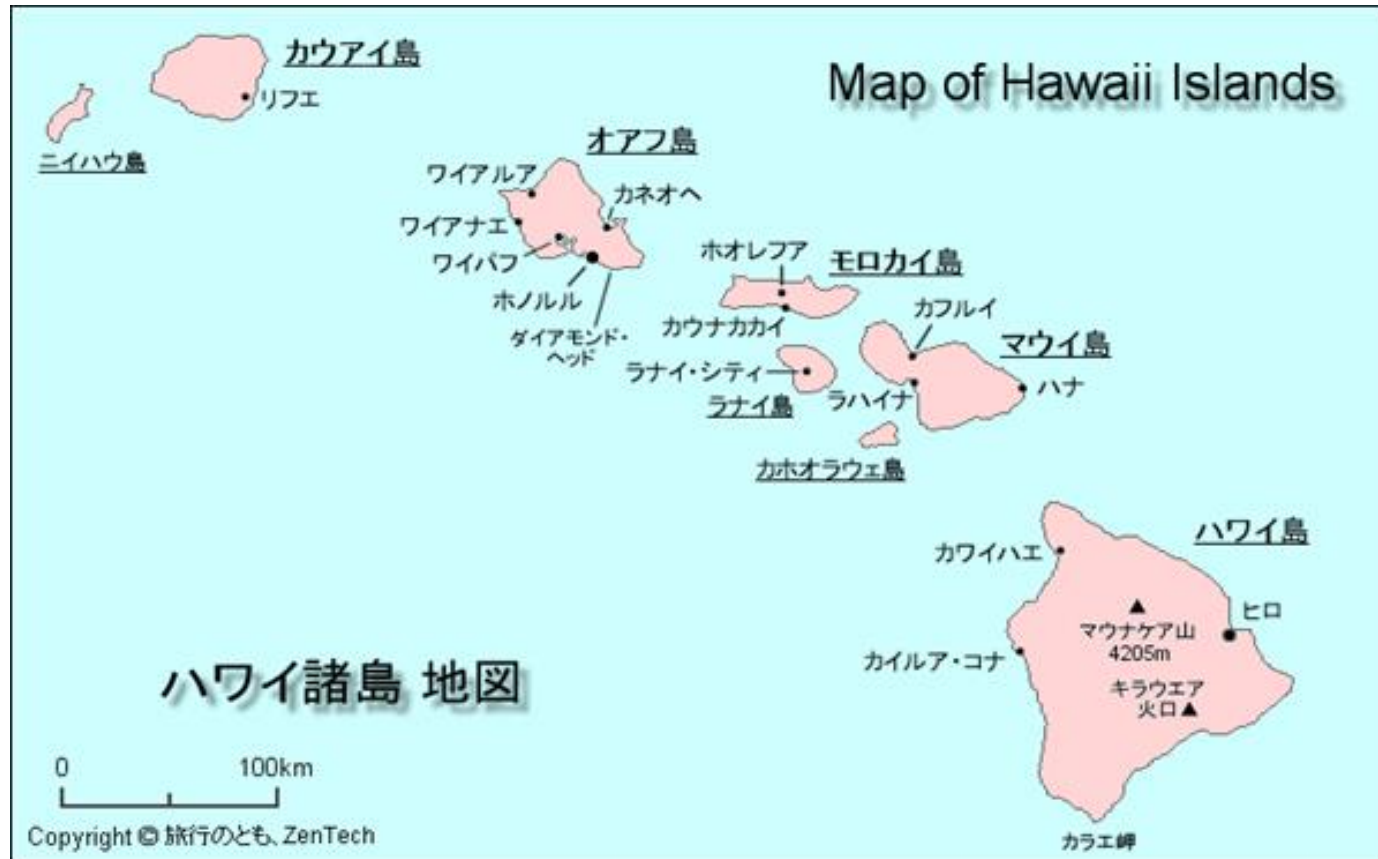
（x）絶滅危惧種の生息域でもある、生物多様性を示す遺産

危機遺産リストに登録されている自然遺産の多くは、この基準を認められている遺産である。日本では、『知床』『奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島』が認められている。

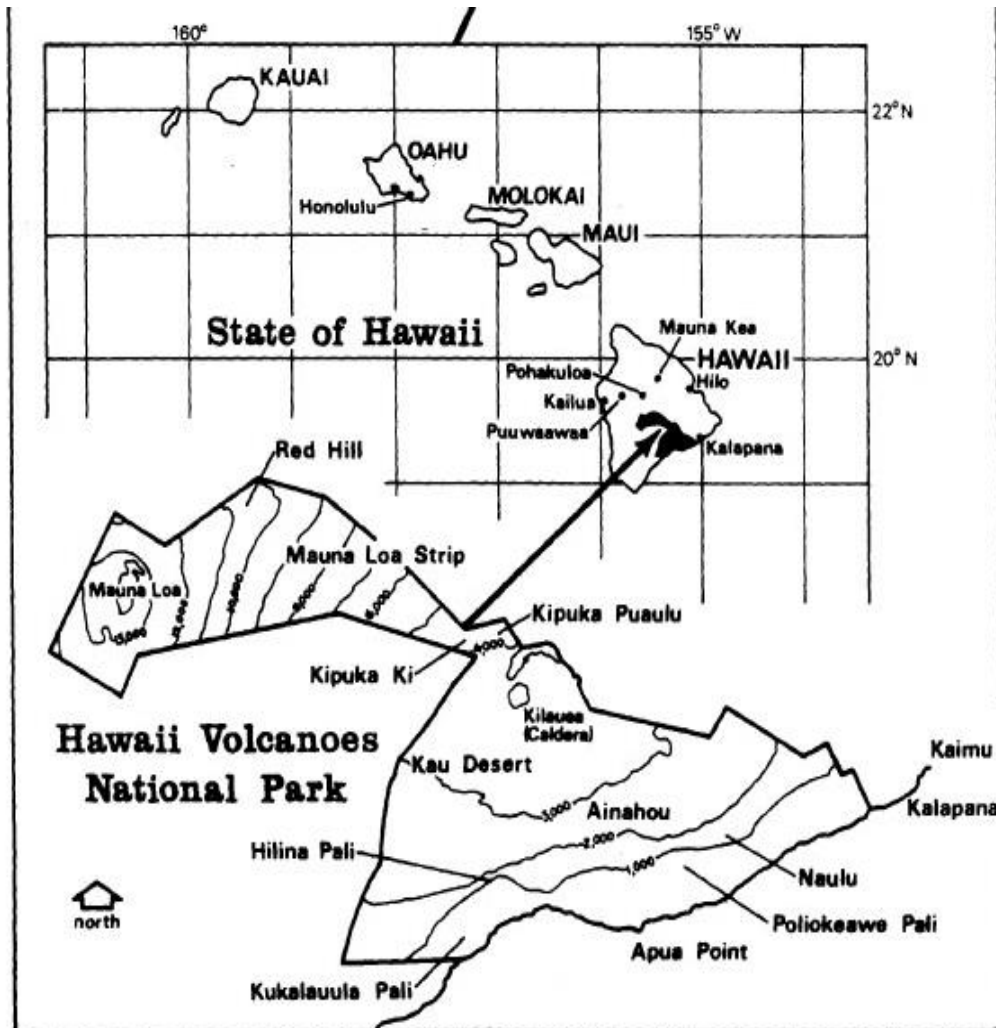
ハワイ火山国立公園（アメリカ合衆国・1987年登録）

テキストP.168

登録基準 (8)



ハワイ火山国立公園（アメリカ合衆国・1987年登録）



ハワイ諸島最大の島ハワイ島の南東部には、2つの活火山**マウナ・ロア山**と**キラウエア山**があり、今も活動を続けるこれらの火山からは地球形成の歴史を見ることが出来る。また、国立公園には貴重な植物や鳥類が生息する。

マウナ・ロア山

- ハワイ語「長い山」を意味する。
- 世界最大級の活火山。海中にかくれたすそ野の部分を加えると、その高さはおよそ1万m。（地上部分の標高は4000mを超える）
- ハワイ島を形成する5つの火山のうち、最も体積の大きい山である。（約75000km³）
- 以前は年1回の頻度で噴火を繰り返してきたが、1984年の噴火を最後に小康状態が続く。



マウナ・ロアの頂上

キラウエア山

- 標高1250m、世界で最も活発な活火山として知られる。
- 先住民族からは気まぐれな「火の女神ペレ」が住む神聖な場所として親しまれている。
- 2018年5月から9月にかけての活発な火山活動の影響で、一時的に国立公園が閉鎖され、観光業への打撃を受けた。また、周辺地域へ溶岩が流れ出し住民が避難した。



キラウエア・カルデラ（火口）
ハレマウマウ火口



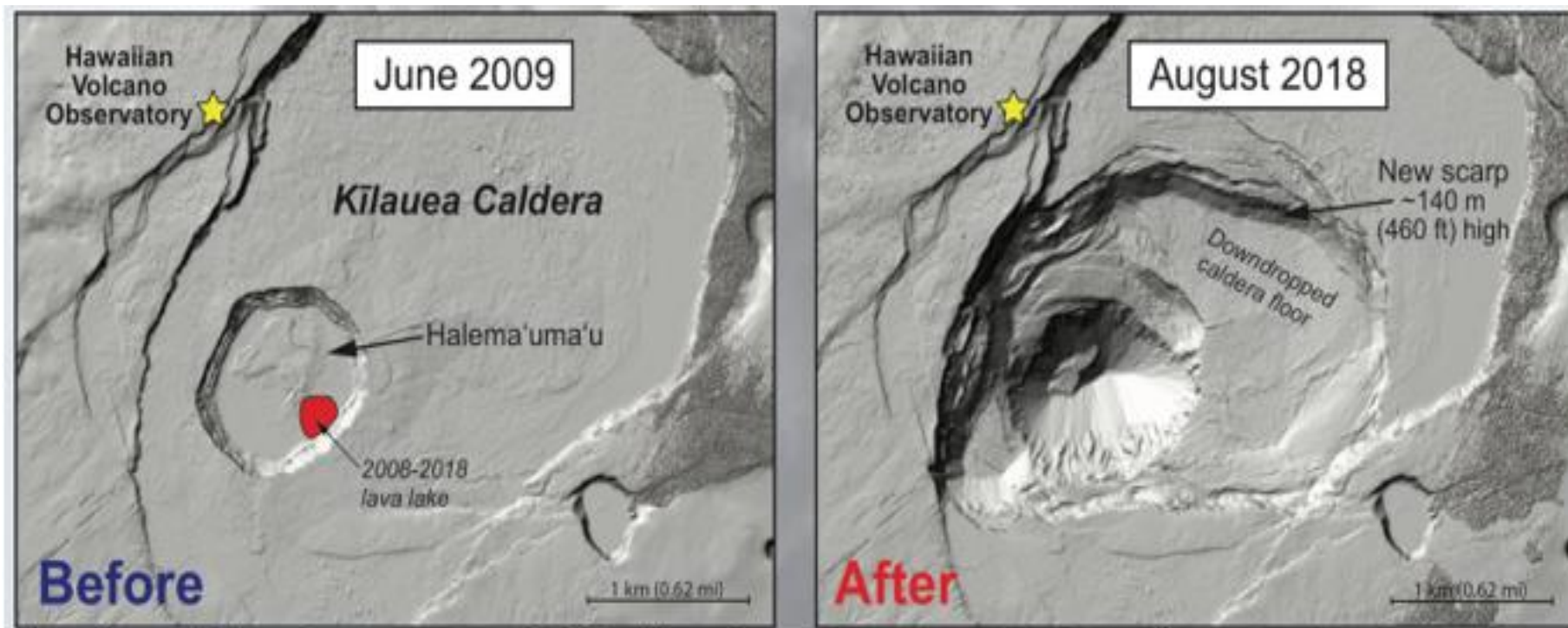
火の女神ペレ

キラウエア山



第14講 海外の自然遺産

2018年噴火後のキラウエア山周辺地図



ハワイの火山は、溶岩の粘性が低く、小さな爆発を繰り返すのが特徴である。そのため、噴火予測が比較的容易で、付近に位置するハワイ火山観測所では研究・調査が活発に行われている。

→世界が注目する火山観測所

+ 天体観測所があり、星空ツアーが日本人には大人気である。

2018年5月 ハワイ・キラウエア噴火 (BBC NEWS JAPAN) <https://youtu.be/GjWTR3ZZotc>

[旅するように学ぶ世界遺産『ハワイ火山国立公園』 \(youtube.com\)](https://www.youtube.com/watch?v=GjWTR3ZZotc)

ンゴロンゴロ自然保護区（タンザニア・1979年登録）

テキストP.176

登録基準 (4) (7) (8) (9) (10)

複合遺産

POINT 2 自然遺産の4条件すべて含む



タンザニアの北部、セレンゲティ国立公園の東に隣接し、世界第2のカルデラとその周囲の広大なサバンナ、山岳地帯から成り立っている。クレーターの大きさは、東西19キロ、南北16キロもの広大な広さだが、ンゴロンゴロ自然保護区に占める割合は面積にして3%に過ぎない。クレーターの底は標高約1800m、火口縁の標高は2300～2400mとなっている。

ンゴロンゴロ・クレーター

自然的価値

「ンゴロンゴロ」はスワヒリ語で「巨大な穴」を意味し、広大なクレーターの内部には、木々が点在し、サバンナを中心として森林、川、湖沼と変化に富む自然を形成している。また、周辺の気候は温暖で頻繁に霧がかかり、短時間ながらも激しい降雨もある。こういった自然環境が**多種多様な動植物の生息を可能**にしている。

世界の動物園

約2万5000頭の野生動物の生息地

例：ライオン、チーター、ゾウ、コフラミンゴ、キリン
クロサイ（絶滅危惧種）、ハイエナ等

文化的価値

ンゴロンゴロ地区は、人類の起源を研究する上でも重要な地区であり、**オルドゥヴァイ溪谷**では、1959年から主にイギリス人考古学者ルイス・リーキー博士とマリー夫人によって、アウストラロピテクスをはじめとする先史人類の骨や足跡の化石、石器が多数発見されている。また、2010年にはこれら発見された化石、ライトリの360万年前の人類の足跡化石により考古学的価値が認められ、複合遺産となった。



(1) ワークブック 第9章「世界の自然遺産」